

イベントプログラム研究部会（第3回）

日 時：7月21日（火）10：00～12：00

会 場：JSC プロジェクトルーム

出席者

- [研究員] 橋爪紳也（部会長）、岩崎博、小松史郎
[オブザーバー] 奥野圭、澤田裕二、下村卓爾、杉森欣夫、
永井利幸、松田友治
[事務室] 小林政則、加藤淑子、内田なお子



おもな議題

- 1) 戦前のスタジアムとイベント（橋爪部会長）
- 2) 情報共有用のグループウェアについて（事務室）
- 3) その他

[配付資料]

- ・「あったかもしれない日本」 橋爪紳也著（紀伊國屋書店）より抜粋
- ・「人生は博覧会 日本ランカイ屋列伝」 橋爪紳也著（晶文社）より抜粋

おもな内容

1) 戦前のスタジアムとイベント（橋爪部会長）

- ・「あったかもしれない日本」にて、戦前に計画された幻のオリンピックの概要、神宮外苑や駒澤ゴルフ場跡地に計画されたメインスタジアムや会場のプランを紹介。
- ・「人生は博覧会 日本ランカイ屋列伝」にて、大正から昭和の初期にかけて活躍した博覧会プランナーの鍛冶藤信を紹介。西宮球場とその周辺エリアで戦前に行われた「大東亜博覧会」、戦後に行われた「アメリカ博覧会」等を解説。
- ・複数の競技場や施設を連携した活用方法、イベントとして使いやすい「広場」の必要性和、周辺エリアと連携したイベントプログラムの考え方を提案。
- ・今後、地方都市でも改築されていくスタジアムやスポーツ施設が、スポーツだけしかできない施設にならないためにも、コンセッション研究部会と連携をして世の中に提言する旨を説明。

[意見交換]

- ・提言までのロードマップを確認したい。（岩崎）

→パンフレットの表4に記載しているスケジュール通りに計画しているが、新国立競技場の計画が白紙になったことで、提言のタイミングにも余裕ができたと捉えている。9月9日（水）の総会で今後の方針を話し合いたい。（小林）

- ・17日に計画が白紙になったが、当初からの設計要件が変更になることはない。（小松）
- ・設計が変わっても、スタジアムに求められるものは変わらない。（橋爪）
- ・マスコミや世論は、コスト削減やコンパクト化に意識が向いて、多彩な機能を持ったスタジアムの建設への関心が薄れている。全国のスタジアムのモデルとなる新国立競技場は「多彩なイベント空間であるべき」というメッセージを緊急に発信する必要性を感じている。（小松）

- ・発表するには舞台が大切で、それを考えると 10 月 20 日の研究大会がふさわしい。(岩崎)
- ・提言は、アスリートファーストとコスト削減の 2 つのキーワードが矛盾しないことが大事。知恵が必要な部分になる。発表の場も名古屋でいいのか検討が必要。(橋爪)
- ・スポーツと文化の振興を実現する意味でも、新国立競技場は複合型施設であるべき。(下村)
- ・橋爪さんの「広場」の発想はとても面白い。オリンピック開催中もチケットフリーで入れる広場があれば、大阪万博のお祭り広場のように多くの人を楽しめるスペースになり、開催後も東京の新名所になる。都市の真ん中に使い勝手の良い広場があることは、非常に大きな価値がある。(澤田)
- ・市民とアスリートの交流の場となるようなパークマネジメントが理想的だと思う。「社交」をキーワードに考えたい。(岩崎)
- ・上下水道や電気などのインフラを整えた広場であることが重要。(小松)
- ・日産スタジアムでは、法律を変えずに解釈を変えることで様々なイベントを実施し、横浜市の支出を削減している。新国立競技場の活用について、規制緩和による多目的な利用を提言の目的に加えて欲しい。(永井)
- ・これまで行っていた文化イベントはコンサートだけだった。スタジアムを拠点に、周囲の広場等と一体になったフェスティバルのようなイベントを世の中に提言したい。(小松)
- ・公共施設に求められるものが変化していると感じる。公共は自由に使える広場を整備して、コンテンツはみんなで考える。新しい事業が生まれてくる予感がしている。(岩崎)
- ・オリンピックの文化プログラムがレガシーとなり、毎年恒例で行われるイベントへと成長していく。当初は開催前の 2019 年を開催時期と考えていたが、建築計画が変更となったことでどのタイミングで行うべきか検討が必要になった。(橋爪)
- ・この研究会のアイデアをどのように具現化するか、落としどころを考えている。パースで分かりやすく伝える方法などを考えたい。(杉森)
- ・必要なイベントは提案して初めてビジネスになる。建築の過程もイベントとして楽しむことも可能だと考える。(橋爪)
- ・ミラノ万博はどのパビリオンでも同じような印象を受けた。映像を多用した展示が原因であり、問題性を感じている。今日紹介していただいた「大東亜博覧会」は、まさにリアルそのもので、リアルに回帰していくことが重要だと感じた。提言の中には「世界一」の何かが欲しい。人々に伝わりやすいモノやテーマが必要だと思う。メディアが取り上げやすく、人の記憶に残るようなものを考えたい。(澤田)

その他

- ・事務局より、グループウェア「サイボウズ Live」の活用を説明。
- ・次回、第 4 回研究会（8 月 24 日）は終了後に懇親会を実施。